

【身近な環境問題】

1. ゴミ問題

●日本のゴミ処理

- ・日本のゴミ焼却場は世界一多い（右表）
日本人は毎日一人1キログラム、年間では
一家庭から1～2トンのゴミが出る
その大半が焼却と埋め立て
⇒ 焼却場の数は世界一
⇒ 大量の焼却の結果、ダイオキシンの汚染大国
- ※環境先進国では、ごみの量は日本の十分の一
- ・ごみ減量政策の成功
- ・ゴミの分別⇒再利用、再資源化

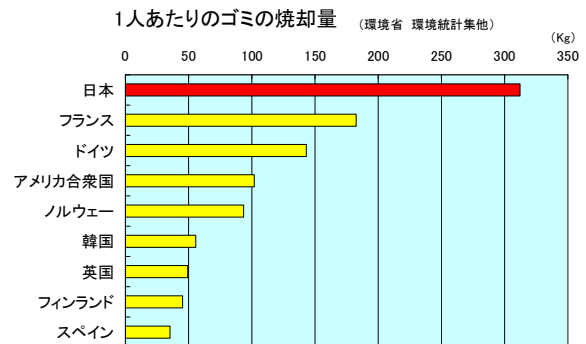
日本	1 2 6 9
アメリカ	2 6 3
フランス	1 8 8
ドイツ	1 5 4
デンマーク	6 6
イギリス	5 5

環境省H20年度,OECD 2008

- ・最終処分場（埋立地）あと10年が限度
※日本の現状（焼却、埋め立て）は
間違っている

●日本のリサイクル法の問題点

- ・容器包装リサイクル法が実施されたが、
根本的な改善はできていない
しかし、ペットボトルなどの使用量は増加
- ・家電リサイクル法も実施されたが、不法投棄が増えるなど根本的改善はない
- ・日本の法律には問題点がある
 1. 企業（生産者）責任が甘い、罰則が軽い
 2. 市民（使用者）責任が甘い、費用負担が少ない
 3. 多数のごみ焼却場、ゴミ処理費が税金で行われていて、市民負担がない
⇒ドイツなどのように、ゴミを有料（高額）にすればいい



●ヨーロッパのゴミ処理の原則（4R）

① REFUSE（作らない） ② REDUCE（減量）

- ・ゴミは製造責任、企業責任
⇒ ゴミの出ない売り方（ばら売り、計り売り）
- ・買ったものは市民責任、ゴミ有料化（高額）
⇒ エコバッグは当たり前
⇒ ゴミになるものは買わない、持ち帰らない
⇒ ばら売り、はかり売り、再使用、リサイクル



③ REUSE（再使用）

- ・まずはリサイクルではなく再使用
⇒リターナブルボトル
以前の一升ビンのように、どのメーカーも同じものを使う
⇒店で回収して、メーカーが洗浄し中身を詰めて販売するシステムが確立

④ RECYCLE（リサイクル）

- ・他の3Rが優先。それでゴミを十分減らした後にリサイクル
- ※日本は大量生産・大量消費・大量廃棄のままリサイクル。ゴミは減らない。

●デポジット制度（企業責任と消費者責任をつなぐ方法）

- ・商品を買うときに一定の預り金（デポジット）が徴収される
使用後、お店に持っていくときに預かり金を返してくれるシステム
- ・環境先進国では、ペットボトルやビン、缶等の飲料容器
クルマ、家電品、蛍光灯、電池などに導入されている
- ・日本では冷蔵庫を廃棄すると4千円取られる ⇒ 不法投棄が増える
オーストリアなどでは廃棄時に1万円戻ってくる ⇒ 不法投棄は減る

●ヨーロッパのゴミ政策

- ・循環経済法によって「経済活動を自然の循環の範囲内で」と大枠を設定
- ・使い捨て容器に高額な税金、ゴミの完全分別、生ゴミの堆肥化、
デポジット制の導入などを実施
⇒ ゴミを作らない、売らない、買わない社会システムになっている

●グリーンコンシューマ（環境意識の高い市民）

- ・お金や経済、目先、ビジネスよりも命や環境、未来、子どもたちを重視する人
- ・ヨーロッパでは、市民の7割以上が環境意識の高い市民
⇒ 環境を重視する法律やシステムができています

●経済で最も成功した国、環境で最も失敗した国、日本

- ・日本でも40年程前まではゴミはなかった ⇒ 環境先進国そのものだった
例えば、服は縫い直し、道具は修理して大切に使っていた
一升ビンは何度も再利用、買い物カゴを持って買い物に行っていた
- ・大量生産により物質的には豊かになったが、結果としてゴミ問題が生まれた
- ・日本にはグリーンコンシューマは1%しかいない ⇒ 環境政策は進まない
⇒ 私たちの意識や考え方を変えることが必要

●私たちにできること

- ・私たち自身が4Rを心がけ、ゴミの出ない買い方・使い方をすることが基本
- ・無駄なものを買わずに本当に必要なものを買う
- ・紙袋や本のカバーなど過剰な包装は断り、買い物袋を持っていく
- ・使い捨ての物やプラスチックのものを避け、再生品や長く使えるものを買う
- ・ゴミ行政（企業責任、有料化、デポジット）に欧州並みになるように意思表示！